

道南太平洋海域スケトウダラニュース

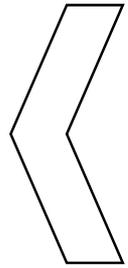
平成18年度 第1号

2006年9月29日

北海道立栽培水産試験場
調査研究部

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

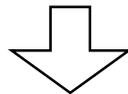


道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成18年8月29日～9月5日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～500m海域

水深150m以深の水温は5 以下とスケトウダラに好適
魚群は鹿部沖、地球岬沖と日高浦河沖に分布
分布水深は200～300m前後（例年より浅め）
スケトウダラの平均反応量は前年同時期より増加



- ・漁期はじめの漁場は例年よりやや浅く、水深200～300mに形成
- ・はしりの漁獲は前年より増加の予想

1. 調査海域の水深150m以深の水温は5 以下となっていました（図1）。
2. 魚群は、渡島側では鹿部沖の189海区、胆振側では地球岬沖（海区番号185）および浦河沖（164海区）に分布していました（図2）。
3. スケトウダラと考えられる魚群は水深200～400mの範囲に観察されました（図3）。
4. トロール調査の結果、300m以深の反応はイトヒキダラが多く、スケトウダラ成魚の割合は1割未満でした。200～300mの反応はスケトウダラ成魚と小型の未成魚でした。漁獲対象となるスケトウダラ成魚は水深200～300mに多いと考えられます。
5. 調査海域の魚探反応の強さは、前年より増加しました（図4）。
6. 現在のところ、水温環境はスケトウダラにとって好適なようです。
7. スケトウダラの分布水深は連年よりやや浅めなので、漁期はじめには例年よりやや浅く水深200～300m前後に漁場が形成される可能性があります。
8. スケトウダラの反応量から判断して、10～11月の漁獲量は前年よりやや増加して2～3万トンと予想されます（図4）。
9. 漁期前の計量魚探調査は、漁期はじめの状態を調べる調査です。今後10月末、11月末、1月中旬にも調査を実施する予定ですので、続報に注意して下さい。

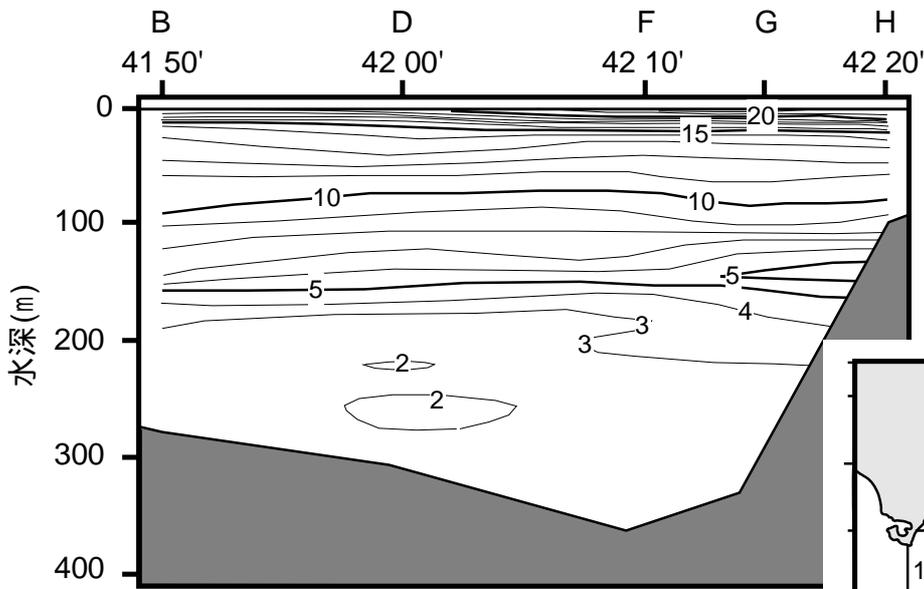


図1．東経141度20分の水温断面

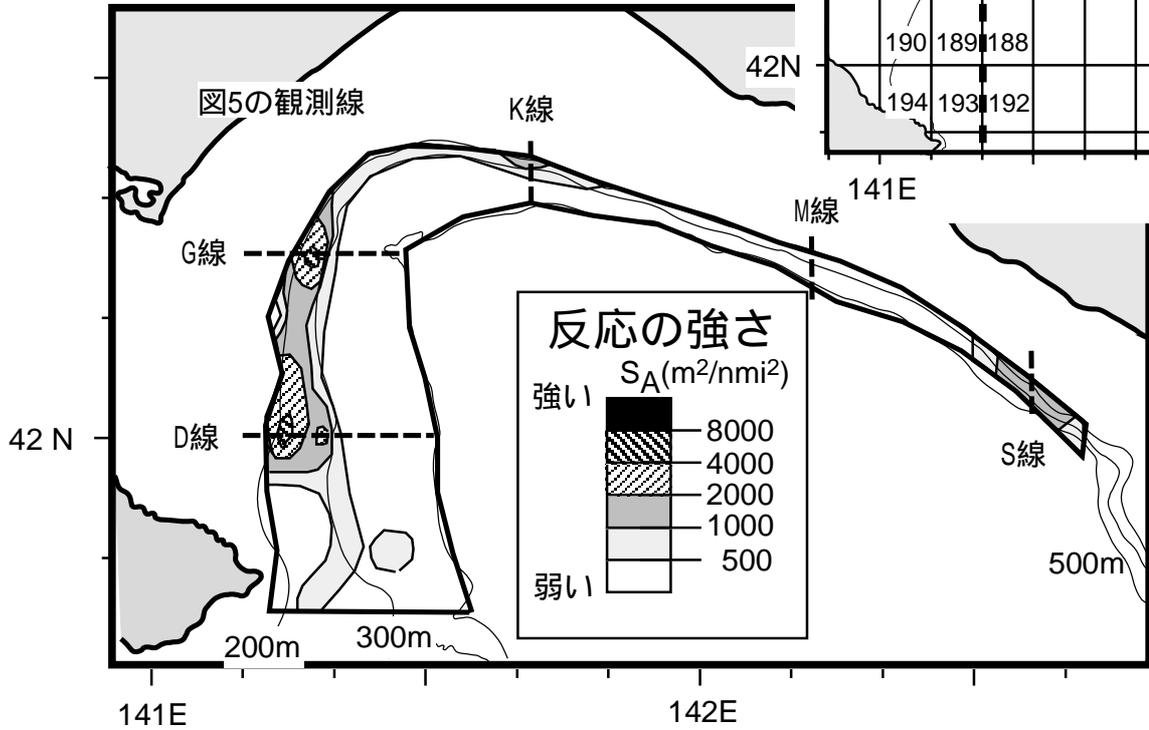
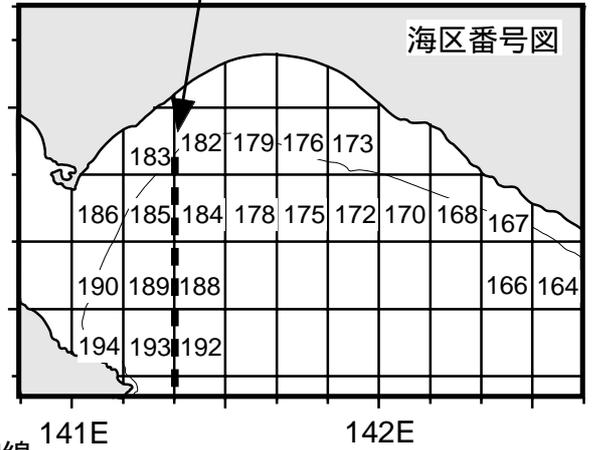


図2．調査海域における魚群の分布
黒ワケの中が調査範囲

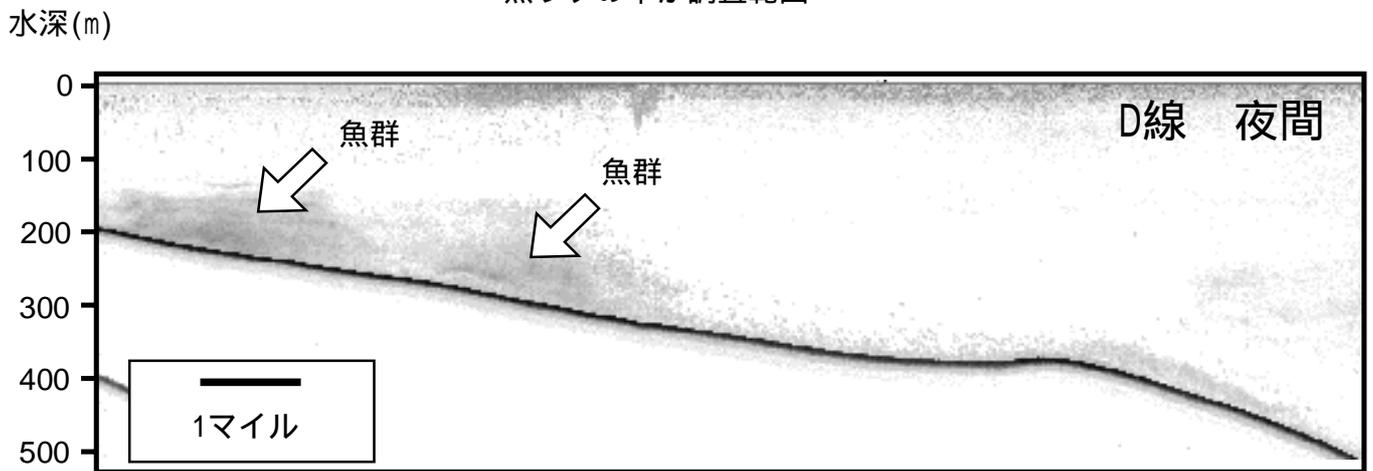


図3．魚群の分布（計量魚探画像）

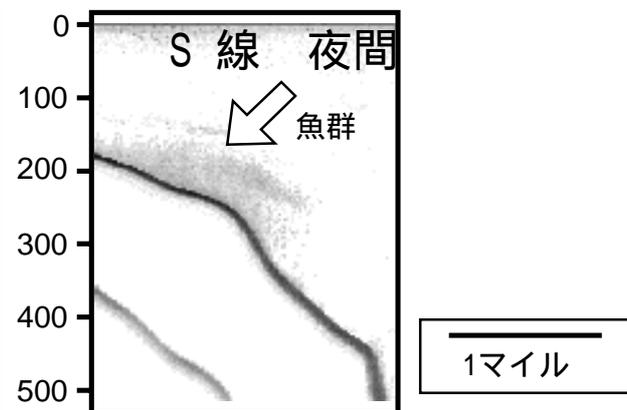
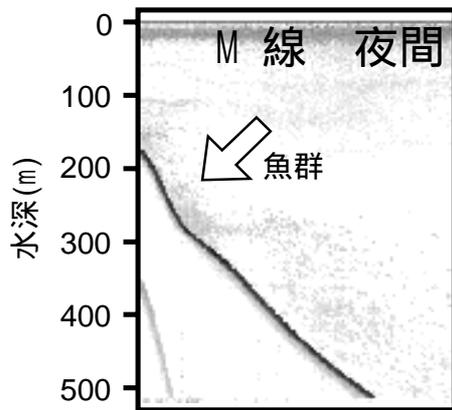
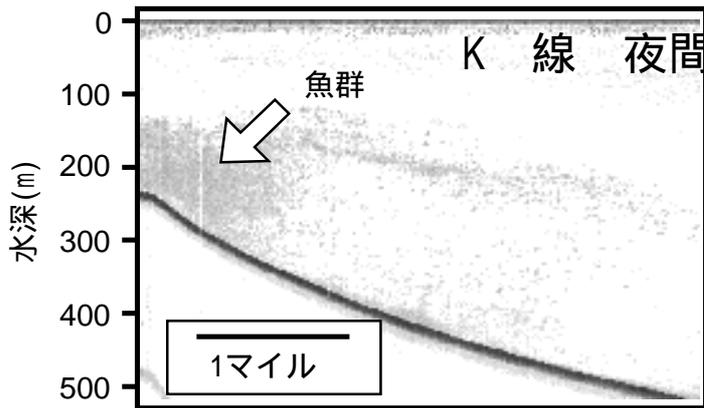
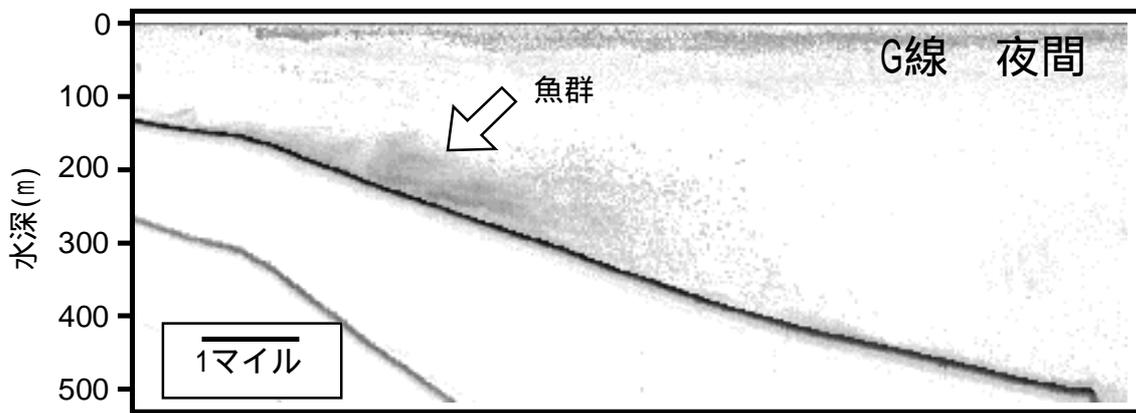


図3．魚群の分布（計量魚探画像）つづき

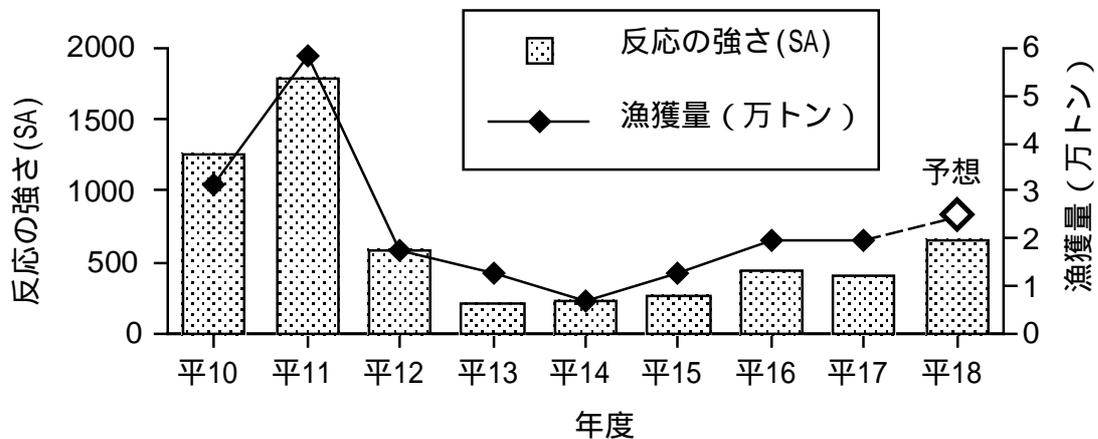


図4．魚探反応の強さ（棒グラフ）と10～11月の漁獲量（折れ線グラフ）の関係